地域とともにある
学校づくり

えべつ型コミュニティ・スクール
えべつＣＳ通信
江別市教育委員会　教育部　総務課

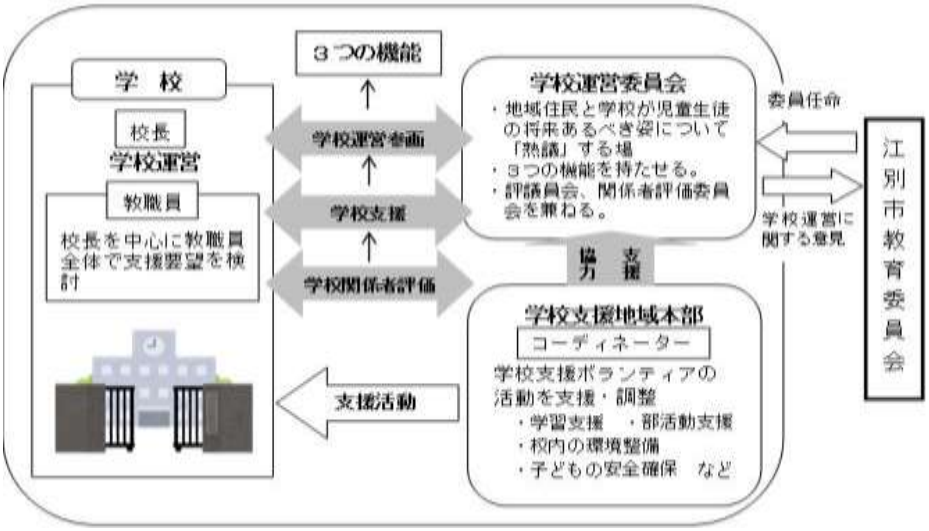
「えべつ型ＣＳ」地域とともにある学校づくり【実践例紹介】

江別市の伝統（教育のまち：オール江別で子どもを育てる）を基盤として、学校・家庭・地域が連携・協力して子どもを育てる持続可能な仕組みを持った学校づくりを行う「えべつ型コミュニティ・スクール」の実践例。今回は、対雁小学校の取り組みを紹介します。

対雁小学校　「地域・保護者からの支援」　《地域・保護者の協力》

えべつ型コミュニティ・スクールの三つの機能の一つに「学校支援」があります。

下の図は、えべつ型コミュニティ・スクールのイメージ図ですが、対雁小では、学校支援地域本部から派遣される学習サポート教員、地域ボランティア、学生ボランティアの他に、学校独自のボランティアに入っていただいています。



江別市学校支援地域本部

≪対雁小の場合≫

①学習サポート教員
　週５日、午前中１名

②地域ボランティア
　習字、ミシン・裁縫、水泳学習補助（今年度中止）等

③学生ボランティア
　１０月から、教育実習に来ていた学生が、ボランティアとして２名

独自に入っていただいているのは、平成 17 年に発足したボランティア団体「いきいき行動隊※1」です。登下校の見守りの他、昔遊び等にも入っていただいています。

※１　いきいき行動隊（江別市ホームページ「市長のページ→公務グラフティ」から転載）

平成26年10月21日（火曜日）
いきいき行動隊表敬訪問

有志によるボランティア団体「いきいき行動隊」が、その活発な自主防災活動を評価され、全国および全道表彰を受けました。

いきいき行動隊は、平成17年の発足以来、児童の見守り活動、昼夜の防犯パトロール、ゴミステーションの清掃、冬期間の排雪、小学校の総合学習や市の懇談会での講演など、地域の教育機関、警察や市などを巻き込んだ幅広い活動を展開し、地域貢献を続けています。

市長は、「皆さんの活動は全国のモデルになる」と称え、改めて敬意と感謝を伝えました。

また、いきいき行動隊以外に、地域・保護者にお願いしているのは、キレイキレイ隊（月１回学校の清掃活動への協力）、図書整備隊（月１回図書館の図書の修理等）、読み聞かせ隊（火曜日の朝の各学級の読み聞かせと年２回のスペシャル※2）の３つのボランティアへの協力です。各ボランティアの活動の一場面（写真）を紹介します。

キレイキレイ隊

図書整備隊

読み聞かせ隊

竹島校長先生（今年度赴任）に伺いました。

学校運営委員１０名の内、２名のボランティア※3に入っていただき、支援の内容も熟議しています。おかげで、学校に必要な支援をいただくことができています。

通学路の５丁目通り、６丁目通り、新栄通りは、いずれも交通量が多く、いきいき行動隊の皆様による見守りは、児童の安全確保にとてもありがたいです。

新型コロナウィルス感染症対策のため、お願いできないものも多くありますが、これまで、多くのボランティアに入っていただき、大変効果が上がって助かっています。これからも、子どもたちのためによろしくお願いします。

注２　夏と冬の年２回、放課後に３０分程度の読み聞かせイベントとして行っています。
注３　２名のボランティアの内訳は、学習サポート教員の方１名といきいき行動隊の方１名です。

実践例のその後　過去に紹介した二つの活動のその後をお知らせします。

野幌中「防災学習」**《地域と備える》**

１０月６日（火）に３年生を対象として、HUG（避難所運営ゲーム）の授業が行われ、講師は、江別市総務部危機対策防災担当職員が務めました。

熱心な話し合いの様子

授業には、学校運営委員と保護者も参加し、防災学習の一つの「ＣＳ防災教室」として、保護者が一つの班を作り、地域住民の視点で、避難所運営をスムーズにする方法をシミュレーションしました。

１０月７日（水）には、１年生が段ボールによる「避難所用間仕切り作成体験」、２年生が「クロスロード授業」を行い、保護者が参観しました。

過去の様子は、７号、９号に掲載してあります。

文京台小「チャレンジ漢検」**《地域と共に》**

昨年度から、CS の新たな取り組みとして、児童の学習意欲や学力の向上の一助にするために「漢字検定」（日本漢字能力検定協会）を開始し、今年度も、10 月 31 日（土）に実施しました。

当日は、児童 30 名、保護者 ３ 名、地域の方 １ 名と昨年より９名も多い３４名が受検しました。

当日の受験の様子

中には、一家そろって受検したご家庭もありました。受検者の最高齢の方は７６歳でした。何歳になっても勉強しようという意欲あふれる姿が、受検者を勇気づけていました。

過去の様子は、14 号に掲載してあります。